

発行元
東京新聞
南千住専売所
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたうん



第61号
平成20年
2月13日

笑う！泣く！ ひとりシェイクスピア

楠美津香



「ギャグが満載なんですよ。」

シェイクスピアは「

楠美津香さん（南千住8丁目在住）は、実験的一人コントを自作自演渋谷ジャンジャンにて様々な女たちの世界を描いた日本で初めて「女性ひとりコント」を確立し、2000年以降は「ひとりシェイクスピア」に取組んで全国を巡演しています。

シェイクスピアって、名前は知っていても難しくてつまらないって思っているけど、シェイクスピアは16世紀（室町・安土桃山時代）、イギリスで四大悲劇『ハムレット』『マクベス』『オセロ』『リア王』をはじめ、『ロミオとジュリエット』『ヴェニス商人』『夏の夜の夢』『ジュリアス・シーザー』など多くの傑作を残した劇作家です。本来は歌舞伎同様に大衆娯楽作品だったのですが、いつの間にか、歌舞伎同様、敷居の高いものになってしまいました。

「世界一わかりやすい超訳」シェイクスピア」

楠さんは、坪内逍遙と小田島雄志さんのシェイクスピアの翻訳を読み比べ、もつ

と判りやすくできないかと噛み砕き原作に忠実に超訳して、子供でもわかるシェイクスピアを作り上げました。

「幕と黒板があれば」

登場人物の相関図を黒板に書き上げ、それぞれのキャラクターに個性を持たせて判りやすく説明してから、1人で芝居・講談・歌を交えて演じて行きます。堅苦しい古典の枠から激しくはみ出して、現代語、しかもイマドキの若者ことばで語ります。時には少年になり、王になり老人になり約2時間、全身全霊を傾けて演じられています。知的な笑いと「格闘技系」パワーがミックスされた舞台は、年齢を問わず見る者を魅了します。予備知識がない人でもシェイクスピア作品を楽しむことが出来ます。名古屋の大学のシェイクスピアを研究している教授は

「まず、楠美津香さんの舞台を見てから本を読んでね」と学生達に指導しています。

10年間でシェイクスピア全39作の上演を宣言している楠さんは、北千住労音東部センターでは新作を一年に4回公演している他に全国公演しています。特に北海道公演は毎年1ヶ月かけて道内各地を回っています。1人での活動を助けてくれるのは各地にいる楠美津香ワールドを支持するファンクラブの人達です。

16日には汐入小学校体育館で親子観劇会で2時間「ハムレット」の公演をされ

ます。

楠さんは、コントグループ（ピククルス、ふらみんご）と放送作家とストリップ劇場幕間のコメディアンとDJとラジオパーソナリティ等を経て、現在に至りますが、その間92年国立演芸場花形演芸会銀賞、94年国立演芸場花形新人大賞特別賞受賞など賞も受賞しています。特技は着物を3分44秒で着る（足袋はくところから）事、モロ師岡さんの奥さんで一児の母でもあります。スーパー三徳でよくお買物をされるとか、楠さんは真面目で前向き、嘘のない姿勢で物静かな方でした。

ハムレットの有名な台詞「生きるべきか、死ぬべきか」が、楠さんでは「OKか、NGか」

簡単明瞭で判り易いですよね。身近にシェイクスピアを感じて、泣き、笑う場所を南千住でぜひ作っていただきたいです。

☆出演依頼、これからの予定など
楠美津香さんへのお問い合わせ先は
北千住労音東部センターチームサウス・
ウッド03（3879）6191



楠美津香の
東京美人百景

96年『ひとりコント楠美津香の東京美人百景』（集英社から出版中）